

問題 4. 子宮内膜増殖症（卵巢莢膜細胞腫）

症例：82歳、女性。下腹部腫瘍。

検体（採取法）：子宮内膜（捺印）

染色：パパニコロウ染色

問題：正しいものに○、間違っているものに×を下さい。（VS：バーチャルスライド）

1. VSでは、壊死性背景がみられる。 ×
2. VSでは、年齢相応の内膜細胞像がみられる。 ×
3. 高悪性度病変である。 ×
4. 卵巢腫瘍の影響を考慮する必要がある。 ○

解説

82歳にしては、年齢不相応に内膜由来細胞が多く採取されている。壊死性背景はみられず、細胞異型もみられないことから子宮内膜増殖症を疑う細胞像である（図1, 2）。女性ホルモンの影響が考えられ、ホルモン剤が投与されていないか、女性ホルモンが含まれた薬剤（サプリメント）などを摂取していないかなどの確認が重要である。本症例では、下腹部に腫瘍があることから、ホルモン産生腫瘍の可能性も考慮する必要がある。実際のところ、左側卵巢には充実性腫瘍があり、断面は黄色調であった。最終診断は子宮内膜増殖症（図3）卵巢莢膜細胞腫（図4）であった。高齢者にもかかわらず、頸部・内膜細胞診で年齢不相応な細胞が出現している場合は、良悪性の判定ばかりではなく、ホルモン剤の投与の有無の確認やホルモン産生腫瘍の可能性を考慮できるような報告書への記載が必要と思われる。

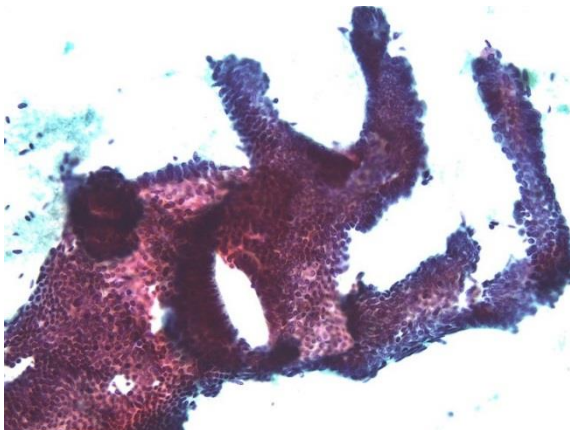


図 1

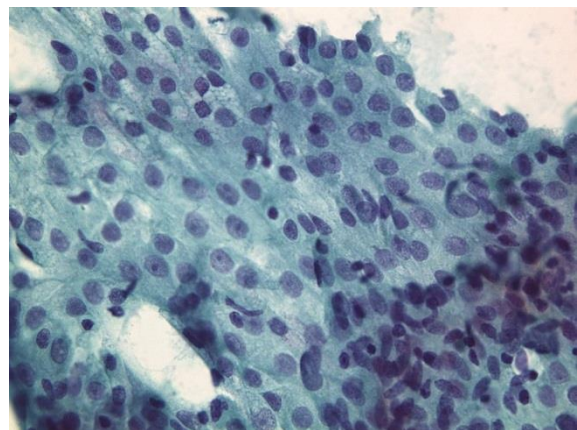


図 2

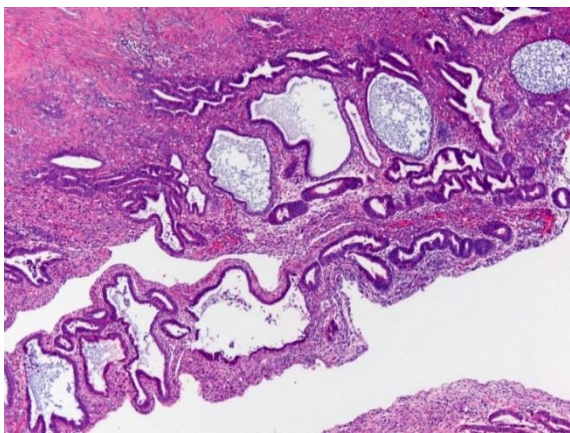


図 3 子宮内膜増殖症

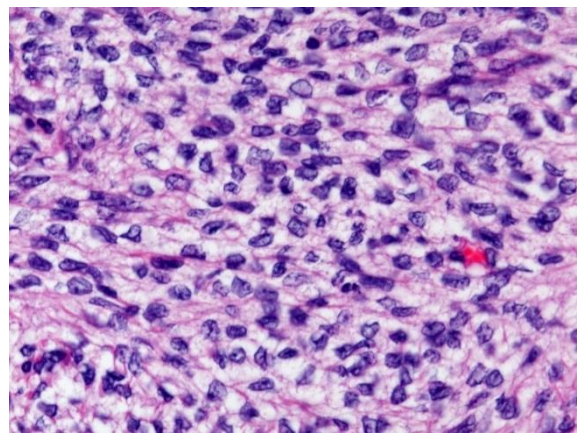


図 4 卵巢莢膜細胞腫